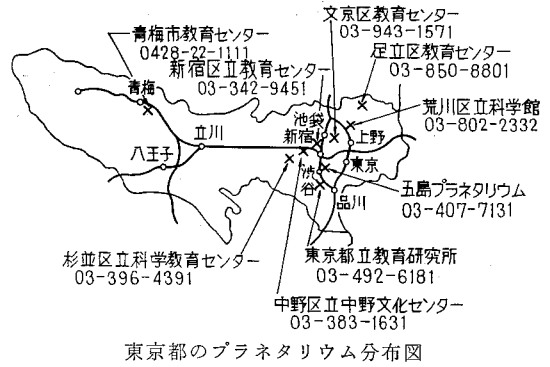


◇ 2月の天文暦 ◇

日時	記	事
3 15	下弦	
4 20	立春 (太陽黄経 315°)	
6 14	天王星 留	
8 18	水星 内合	
11 14	朔	
12 13	月 最遠	
19 16	雨水 (太陽黄経 330°)	
17	上弦	
20 17	水星 留	
26 7	月 最近	
10	望	

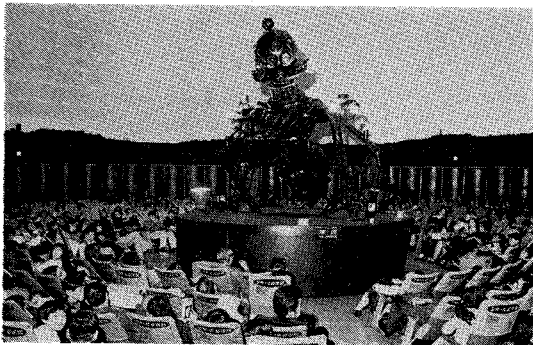


☆ 天文教育施設めぐり (I) ☆

東京篇

天文教育施設といえだれでもが先ずプラネタリウムと考えるだろう。それほどまでにプラネタリウムは多くの人に関心を持たれ、親しまれている。

わが国では1937年に大阪四ツ橋の電気科学館に、プラネタリウムが設置され、その翌年には東京有楽町にも設置された。これらがわが国に於ける一般天文教育施設の最初である。東京のプラネタリウムは惜しくも1945年に



戦災のため焼失してしまった。その後1957年に東京では12年ぶりに、渋谷の東急文化会館8階の五島プラネタリウムに、西ドイツ、カール・ツァイス社製のものが設置された。このプラネタリウムは、ツァイス独特の皿鉢型で、その両端の直径80cmほどの球に恒星投影器がついていて、人工の星が投影される。一等星などの輝星は恒星球のわきについたつばから投影され、各恒星独特の色がついている。恒星球を結ぶ、かご状の部分には、太陽、月、惑星用投影器がついた棚があり、年周運動を演出することができる。その他日周運動、歳差運動、緯度変化などの動きもできるようになっている。

この五島プラネタリウムは、現在活躍している全国で100個所にものぼるプラネタリウムの草分け的な存在であり、現在各所でプラネタリウムに携わる人々が必ず一度は見学し、その演出法を学んだところである。

現在、東京都内には、プラネタリウムが10台ほど設置されているが、日曜日、祝日ははじめほとんど毎日のように一般公開されているところは、この五島プラネタリウムぐらいであろう。あとのところの多くは、教育委員会のもとに、学校教育のための投影をおこなっていて、特定の日を除いては一般公開をしていない。

(河原郁夫)

